

心に残る大切な一冊

過去の読書から、勇気や元気が湧いてきた本々、経営・事業のヒントになった本々、などについて会員の皆さまにご紹介いただくコーナー「心に残る大切な一冊」では、当所に設置されている8支部の支部長からご紹介いただきます。



TBSブリタニカ
小林 充 著
「ぼくが料理人になったわけ」



株式会社 つま正
代表取締役社長
小山 正武 氏
(北部支部 支部長)

きました。

著名な料理人13人の修業時代の思い出を書きした本書の初版は1996年。食の専門月刊誌『料理王国』の連載に加筆したもので、人気テレビ番組「料理の鉄人」で活躍された道場六三郎さんも登場します。

といっても私が本書を手にしたのは数年前。調理師会の大先輩で登場人物のひとりである中西彬さんを知ってからでした。中西さんは中学卒業後に料理の道に入り、大阪の数々の名料亭を経て、本書の出版時には「有馬古和泉閣」(神戸市)の料理長。その後も調理師会の役職を歴任され、料理界の発展と後進の育成に尽力されてきた方です。私は調理師の資格取得後、食材を供給する仕事をしてきました。そのため、料理に人一倍関心がある上に、「朝まだきに跳ね起きては大根の柱むきや卵のだし巻きをつくる」中西少年の修業時代の姿が自身に重なり、大いに親近感を抱

中西さんは、五味(甘辛酸塩苦)、五色(赤青黄白黒)、五法(生焼煮蒸揚)という陰陽五行説から生まれた日本料理の定式を知って料理に開眼しますが、感覚的にわかっていることを上手に説明されると見事にストンと腑に落ちる。それが職人だと思えます。

本書からは促成栽培による画一的な人材が急増した当時の憂慮が読み取れます。それから四半世紀が経った今、職人的な徒弟制度を旧弊と非難するばかりではなく、そこに込められた先人の知恵を次代に伝える工夫が求められています。それが本書から現代へのメッセージだと感じています。

株式会社つま正

横浜中央卸売市場に隣接した地に青果業として1977年創業。県内及び都内のホテル・レストランに自社便で業務野菜をお届けしています。



アジア物性材料(株)
取締役会長
鶴岡 武 著
私の紀行文
恩田川



横浜ドリムライン
代表取締役
河原 裕典 氏
(みどり支部 支部長)

著者は尊敬する経営者の先輩であるアジア物性材料株式会社(以下同社)の鶴岡武会長(元みどり支部副支部長)です。鶴岡氏とは横浜商工会議所みどり支部の交流会で数十年前に出会って以来お世話になっております。私が見みどり支部の若手経営者交流会の会長や横浜緑ロータリークラブの会長を務めていた時から、様々なご支援をいただきました。

同社は、高純度レアメタル製品を供給しています。同社の製品は最終製品として光半導体、薄膜太陽電池、医療品、触媒、青色発光ダイオードなどに利用されています。この「私の紀行文 恩田川」は同社の会社月刊誌「恩田川」(同社の裏を流れる鶴見川の支流)に投稿した記事を抜粋し、纏めたものです。鶴岡氏は昭和55年から36年間に、仕事や観光で50カ国を歴訪されており、本書の中で海外での出来事や出会い、風土についての

詳細な記録が中心ではありませんが、ご夫婦や家族旅行の記事も掲載されており、何とも微笑ましい気持ちになりました。本書には紀行文のみならず、著者の半生を綴った回想録なども掲載されており、英語が堪能な鶴岡氏が「外国嫌いであった。」と振り返っている点についてはとても驚きました。世界を舞台に見識を広げ、家族を愛し、仕事を愛し、何事にも挑戦していく姿が窺える一冊です。

株式会社横浜ドリムライン

平成6年創業。ガソリンやガストラム缶潤滑油輸送を中心とした運送事業を中心に地域密着の運送会社です。